

膵臓がん 早期発見へ広がる連携

かかりつけ医がわざかな異常発見→中核病院

自覚症状が出たときにはすでに進行していることが多い膵臓がん。生存率も高くない。手術で治すためには、早く見つけることが重要だ。かかりつけ医と地域の中核病院が連携して、早期発見につなげる取り組みが広がりつつある。

親子、きょうだいに 膵がん患者が2人	6.4倍
慢性膵炎	13.3倍
膵管内乳頭粘液性 膵がん合併頻度が 腫瘍(IPMN)	2~10%
膵囊胞(すいのうほう) 糖尿病	約3倍 1.94倍、1年未満は5.38倍
喫煙	1.68倍
大量飲酒	1.22倍

【膵がん診療ガイドライン
2019】から
主な危険因子とリスク

尾道市では市医師会が2007年、膵がんの早期発見プロジェクトを始めた。かかりつけ医は、腹部の痛みなどの症状や、危険因子を持つと判断した人にエコ一検査をする。そこで異常があれば、精密検査を目的に中核病院へ紹介する。膵がんも早期発見できれば生存率は高い。「膵癌早期診断研究会」の分析では、ス

尾道市では市医師会が2007年、膵がんの早期発見プロジェクトを始めた。かかりつけ医は、腹部の痛みなどの症状や、危険因子を持つと判断した人にエコ一検査をする。そこで異常があ

れば、精密検査を目的に中核病院へ紹介する。膵がんも早期発見できれば生存率は高い。「膵癌早期診断研究会」の分析では、ス

尾道市では市医師会が2007年、膵がんの早期発見プロジェクトを始めた。かかりつけ医は、腹部の痛みなどの症状や、危険因子を持つと判断した人にエコ一検査をする。そこで異常があ

血液からリスクある人絞り込む研究も

花田さんによると、尾道方式を参考にし地域独自の方法を取り入れ早期発見する取り組みが、全国30地域以上で導入されている。大阪府岸和田市では、14年から葛城病院と市内のかかりつけ医が連携する。当時、葛城病院に着任した坂本洋城・坂本内科小児科医院院長が、危険因子を点数化する仕組みをつくった。異常な体重減少など4項目を各1点、エコー検査での異常は2点の計6点中2点以上で膵がんを疑い、葛城病院で精密検査。手術を

花田さんによると、尾道方式を参考にし地域独自の方法を取り入れ早期発見する取り組みが、全国30地域以上で導入されている。大阪府岸和田市では、14年から葛城病院と市内のかかりつけ医が連携する。当時、葛城病院に着任した坂本洋城・坂本内科小児科医院院長が、危険因子を点数化する仕組みをつくった。異常な体重減少など4項目を各1点、エコー検査での異常は2点の計6点中2点以上で膵がんを疑い、葛城病院で精密検査。手術を

花田さんは「がんのかたまりがはつきり見つかなくて、がんのリスクや小さいサインがあつたら、たまたまわざに精密検査へ。これが『尾道方式』の神髄」と話す。

危険因子を点数化 発見率上昇

膵がんの早期発見目指す「尾道方式」のポイント

「危険因子」が複数ある

- がんのかたまり
- 膵管の狭窄(きょうさく)や拡張
- エコーでよく見えなかつたが、リスクがあると判断

精密検査

- 超音波内視鏡
- MRI
- CT
- 膵液の細胞検査

早期発見へ

花田さんは「がんのかたまりがはつきり見つかなくて、がんのリスクや小さいサインがあつたら、たまたまわざに精密検査へ。これが『尾道方式』の神髄」と話す。

尾道方式 小さなサイン 迷わず精密検査

広島県の70代の女性は、

ステージ0期は10年生存率が94・7%だ。だが、自覚症状が現れにくく胃の後ろにあ

るためエコー検査でも見つけにくい。診断時に最も多く

5・2%だった。

早期発見は、その後を大

きく左右する。各地域でがん診療の中心的な役割を担う病院などが加盟する、全

国がんセンター協議会加盟

32施設で、11~13年に診断

された全ステージの5年生

存率は12・1%。一方、尾

道方式で見つかった患者で

は、約20%に達する。

花田さんは「がんのかた

まりがはつきり見つかなら

くても、がんのリスクや小

さいサインがあつたら、た

めらわざに精密検査へ。こ

れが『尾道方式』の神髄

と話す。

膵がんになる率は10万人に約30人で他のがんと比べて少ない。症状や危険因子がない人の精密検査は奨められていない。血液検査で、リスクがある人を早期に絞り込む研究も進む。国立がん研究センターな

どは15年、早期の膵がん患者やリスクが高い人で、血

液中の「アポリボプロテイ

アポA2」の研究を進めて

きた日本医科大学大学院の本田一文教授（腫瘍生物学）は「膵がんのように病気になる率が低いがんでは、最初から患者に負担のかかる検査をするのは効率が悪い。リスクがある人を絞り込み、次の段階で細か

く調べる画像検査へつなげられる」と話す。

「パンキヤンジャパン」の理事長で、自らもステージ0期で手術で治療できた眞島喜幸氏は「がんになりや

すい生活習慣や家族の病歴があれば、自分自身でも膵がんを疑って医療機関を受診することも大切」と話す。（神田明美）

次回の掲載は5月
下旬の予定です。